

J A 全農ちば 営農情報集 (6月号)

今月の情報

- ① 水稻・当面の対策について
- ② 園芸野菜 病害虫防除情報
- ③ 果樹(ナシ) 病害虫防除情報
- ④ 安全な農作物生産の取り組みについて
☆食中毒に気を付けましょう・手洗いについて☆
- ⑤ ガーベラ 天敵を利用した防除事例紹介(別紙)
バンカーシートを利用 下記JA全農ちばHP営農情報コーナーに掲載

6月の気象について(気象庁 5/28 発表 長期予報(1か月)から)

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

- ① 予報では降水量ともに平年並みですが、
気温については高く、特に6月上旬までは
その傾向が強いです。
- ③ 梅雨時期を迎えますので、今後の天候の
変化に注意しましょう。

【気 温】 関東甲信地方



【降 水 量】 関東甲信地方



【日照時間】 関東甲信地方



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(長期予報(1か月)は毎週木曜日に発表されます。週予報とともに確認し、今後の栽培管理の計画を立てましょう)

令和2年6月

J A 全農ちば 営農支援部

記載の農薬登録は作成時点のものです。農薬使用時は最新登録内容を確認し使用しましょう。

営農技術情報集のカラー版や、その他の営農情報は全農ちばHP内営農情報コーナーにて公開中!

全農ちばHP <<http://www.cb.zennoh.or.jp/index2.html>>

水稻・当面の対策について

J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

移植後の生育は、「平年並み」で推移していますが、4月の早い時期の移植では強風・低温・雹による影響で生育はやや遅れ気味となっている圃場もあり、地域により生育のバラつきが出ています。

6月前半は気温がかなり高くなると見込まれていますので、生育ステージを確認し、中干し追肥等の作業が遅れないよう注意しましょう。

2. 近年の高温障害対策に！

～中間追肥：けい酸加里の使用について～

- (1) 効果：けい酸と加里が同時に吸収されることにより、根の活力が高まり登熟向上につながります。また、受光体勢が良くなるので、光合成を促進させる効果もあります。
- (2) 施用時期：中干し直前（田植後35～45日）
- (3) 施用量：20～40kg／10a

けい酸加里
20kg

高品質な米作りのお手伝い

近年、極端な猛暑や日照不足などの異常気象が頻発しています。けい酸加里によって根や葉を丈夫に育て異常気象に負けない丈夫な稲作りをしましょう。

保証成分(%)				含有成分(%)	
水溶性加里	水溶性けい酸	水溶性苦土	水溶性ほう素	石灰	鉄
20	34	4	0.1	7~12	2~5

供給 JAグループ 製造 開発肥料株式会社

http://www.jpsik.com

3. 分けつ数をチェックして中干しを実施しましょう

中干しが出来ず、湛水状態を続けると酸素不足によって、土壌の還元化が進んで根が老化し、幼穂形成期以降の登熟期間の養分吸収が悪くなります。

根が老化するとケイ酸、リン酸、加里などの吸収が抑制されるので、稲の体が軟弱気味になります。

「中干し」の効果は...

- ・無効分げつの抑制と下位節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲にします。
- ・土壌中に酸素を供給し、根を活性化させます。
- ・機械作業に適した土壌硬度を確保します。

茎数が確保された圃場では速やかに「中干し」を実施しましょう。特にコシヒカリは倒伏防止のために遅れずに実施しましょう。

表1 品種別の中干し開始の目安

品 種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480 本/㎡ (27 本/株)	480 本/㎡ (27/株)	440 本/㎡ (24 本/株)
ふさこがね	4月20日	360 本/㎡ (20 本/株)		
コシヒカリ	4月20日	320 本/㎡ (18 本/株)	310 本/㎡ (17 本/株)	300 本/㎡ (16 本/株)
	5月 1日			

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たりの茎数の目安

※疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります。

4. 「ふさおとめ」「ふさこがね」は幼穂のチェック！

～穂肥の遅れに注意～

4月20日植えの「ふさおとめ」は6月中旬頃から幼穂形成期を迎えます。穂肥の適期は幼穂形成期（出穂前25日）～出穂前18日（幼穂長1mm～10mm）です。「ふさおとめ」は施用が遅れると玄米中のタンパク含量が増加し、食味の低下を招くので注意が必要です。また、「ふさこがね」の穂肥適期は出穂前18日（幼穂長10mm）です。どちらも適期施用を心がけましょう。施用の際は、速効性のある肥料を使用しましょう。

表2 品種別の幼穂形成期での生育目標と穂肥の施用適期(栽植密度 18.5 株/㎡)

品 種	草 丈 (cm)	茎 数			葉色 (SPAD 値)	出穂前日数 (幼穂長)
		砂質	壤質	粘質		
ふさおとめ	55 以下	570～620 (31～34本)		520～570 (29～31本)	4.0 (35～38)	出穂前 25 日 ～出穂前 18 日 (1 mm～10 mm)
ふさこがね	60～ 65 以下	450～500 (25～27本/株)			5.0 (38～42)	出穂前 18 日 (10 mm)

5. 倒伏軽減剤について

コシヒカリは、幼穂形成期頃の茎数が過剰となったり、草丈が75 cmを超えると倒伏が心配されます。稲の生育状態に合わせて、倒伏軽減剤の散布を検討してください。また、大豆等からの復元田や倒伏の常発田においては倒伏軽減剤の散布をするようにしましょう。

表3. 倒伏軽減剤の使用時期と目安

薬剤名及び 使用時期	効 果 発現場所	7月15日頃 出穂の場合	7月25日頃 出穂の場合	10a 当たり 使用量
ロミカ粒剤 (出穂 25～10 日前)	上 位 (2～3 節)	6月20日 ～7月5日	6月30日 ～7月15日	2～3 kg
スマレクト粒剤 (出穂 20～7 日前)	上 位 (2～3 節)	6月25日 ～7月8日	7月5日 ～7月18日	2～3 kg
ビビフルフロアブル (出穂 10～2 日前)	上 位 (1～2 節)	7月5日～13日	7月15日～23日	1000 倍液の 100 ㍓散布 (散布ムラに注意)

6. イネクロカメムシ対策について

イネクロカメムシは斑点米カメムシ類と異なり、主に株元に寄生しイネの茎葉を吸汁します。県南から近年、県中央部でも見られ、発生が拡大しています。

加害されると葉先は黄変、捻転し、草丈は伸びず分げつが抑制されます。成虫は光沢のない黒色で体長8～10ミリ、防除は箱処理剤または本田防除（6月下旬）で対応します。



被害葉と成虫

表4. イネクロカメムシ対策の主な本田防除薬剤

対象害虫	薬剤名	使用量(10a)	使用時期	使用回数	備考
カメムシ類	キラップ粒剤	3 kg	収穫 14 日前	2 回以内	湛水散布
	MR. ジョーカー粉剤DL	3～4 kg	収穫 7 日前	2 回以内	
	エルサン粉剤2	4 kg	収穫 7 日前	2 回以内	

作成者：古内

園芸野菜 病害虫防除情報

1 はじめに

今月上旬ごろまでは平年より高い気温となる予報です。気象の急な変化に注意し、特に施設栽培では高温対策の換気と遮光の実施が遅れないようにしましょう。また梅雨の時期に移り降雨が増えてくると、害虫だけでなく病害の発生も懸念されます。防除が遅れると結果的に多発につながりますので、早めの防除をお願いします。

2 ネギ[ネギアザミウマ]

- (1) 有効な薬剤系統が少なくなっています。下表の効果的な散布剤を中心に、ローテーション散布を行いましょう。
- (2) 朝、夕は株元付近にいて日中葉上に移動します。早朝、夕方方の散布時は株元まで薬剤がかかるよう注意し防除しましょう。
- (3) ネオニコチノイド系薬剤（スタークル・ベストガード等）は定植時の粒剤使用を中心とし、ハモグリバエとの同時防除として使用しましょう。



○ネギ ネギアザミウマ 防除薬剤

対象病害	薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
ネギアザミウマ (アザミウマ類)	ネオニコチノイド系	ベストガード粒剤	6kg/10a	定植時	1回
		スタークル顆粒水溶剤	50倍/0.5ℓ/ 1ℓイ	定植前日～ 定植時	1回
	ジアミド系	ベリマークSC	400倍/0.5ℓ/ 1ℓイ	育苗期後半 ～定植当日	1回
	マクロライド系	アグリメック	500～1000倍	3日前まで	3回
		アニキ乳剤	1000倍	3日前まで	3回
	スピノシン系	スピノエース顆粒水和剤	2500～5000倍	3日前まで	3回
		ディアナSC	2500～5000倍	前日まで	2回

3 トマト[コナジラミ類・アザミウマ類・葉かび病]

(1) コナジラミ類

県内ではオンシツコナジラミ、タバココナジラミが発生します。葉のすす汚れに加え、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介する恐れがあります。両種が混在して発生しますが、多発するとどちらか一方に偏るケースも見られます。また昨年の一部の地域でトマト黄化葉巻病が多発生しましたので注意しましょう。

(2) アザミウマ類

トマトでは葉の食害や果実に白ぶくれ症状に加え、トマト黄化えそウイルス（TSWV）、キク茎えそウイルス（CSNV）を媒介する恐れがあります。県内ではミカンキイロ、ヒラズハナアザミウマが主に発生します。ミカンキイロは葉裏、ヒラズハナは花（果実）へ寄生することが多いです。有効な薬剤が少ないため、同じ系統の薬剤の連用・多用は避け、ローテーション防除を行ってください。

○トマト コナジラミ類☐・アザミウマ類☑ 防除薬剤マルハナ影響日数に注意※下記に記載

コ	ア	薬剤系統	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
○		マクロライド系	6	アフーム乳剤	2000	収穫前日	5回以内
○	○			アグリメック	500～1000		3回以内
○	○	ネオニコチノイド系	4A	ベストガード水溶剤	1000～2000		3回以内
○	○	スピノサド系	5	ディアナSC	2500		2回以内
○	○	ジアミド系	28	ベネビアOD※1	2000		3回以内
○		その他①	9B	コルト顆粒水和	4000		3回以内
○		その他②	4C	トランスフォームフロアブル	1000～2000		2回以内
※2	○	その他③	UN	ファインセーブフロアブル	1000～2000		3回以内

※1 葉害回避のためアミスターなどのQoI剤と混用、隣接散布を避ける ※2 タバココナジラミのみ
＜マルハナバチ影響日数＞

アフーム乳剤：2日 アグリメック：7～14日 ベストガード水溶剤：10日以上
ディアナSC：1～3日 ベネビアOD：1日 コルト顆粒水和剤：3～7日
トランスフォームフロアブル：2～5日 ファインセーブフロアブル：1日

(3) 葉かび病（すすかび病防除も兼ねる）

今年度は4月以降発生が見られております。感染から発病まで14日以上かかる病害ですので、現在発病している葉の上まで感染している恐れがあります。すでに発生が見られる場合は下記治療剤を加えた防除ローテーションを行いましょう（ハウスでは日中の高温を避けて散布しましょう）。

○トマト 葉かび病 防除薬剤

対象 病害	FRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
葉かび病	3	トリフミン水和剤	3000～5000倍	収穫前日	5回以内	予防・治療
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～3000倍	収穫前日	3回以内	予防・治療
		アミスター20フロアブル	2000倍	収穫前日	4回以内	予防・治療
	7+11	シグナムWDG	2000倍	収穫前日	2回以内	予防・治療
	1+10	ゲッター水和剤	1000～1500倍	収穫前日	5回以内	予防・治療

4 サトイモ〔疫病〕

千葉県では2年ほど前から被害が増加しております。6月以降の長雨後に被害が拡大する傾向がありますので、天候を確認し下記薬剤による防除を実施しましょう。サトイモは農薬が付着しにくいので展着剤も加用しましょう（野菜類・いも類登録があるもの：ハイテンパワー等）

○サトイモ 疫病 防除剤

薬剤系統	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	特徴
QoI剤	11	アミスター20フロアブル	2000	収穫14日前	3回	予防治療
—	21 27	ダイナモ顆粒水和剤	2000	収穫21日前	3回	予防治療

作成：名雪

果樹(ナシ) 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1 はじめに

今年は4月中旬、開花期間終了ごろからまとまった降雨が2日ほどあり、早々に黒星病の感染条件が揃う条件となりました。

またその後も10日間隔で小さな降雨が続いており、乾燥が続いた昨年同時期と比較しても、発生した黒星病が止まりにくい環境にあったと考えられます。

今後の長期予報では気温が高く、降雨は並です。黒星病の感染適温の上限は25℃とされますが、詳細な予報では最高気温25～28℃が6月上旬まで続きますので、降雨のたびに黒星病拡大のリスクは続くと想定されます。

一方で、カイガラムシ類、ハマキ・シンクイムシ類の発生時期となりますので、これらの発生にも注意が必要です。

2 病害防除（黒星病）



【6月】黒星病 防除薬剤（輪紋病防除を含む）

6月上旬 : ベルクートフロアブル 1500 倍 （収穫14日前／5回以内）

6月中旬 : フロンサイドSC 2000 倍 （収穫30日前／散布1回）

6月下旬（新梢停止直後）：**ストロビードライフフロアブル【QoI 剤（ストロルリン系）】**

2000 倍（収穫前日まで／3回以内）

+ オーソサイド水和剤 80 1000 倍 （収穫3日前／9回以内）

時期の目安に注意。果実肥大期に防除することが狙いです

黒星病対策が必要な場合はオーソサイド水和剤・ベルクートフロアブルを追加散布（回数注意）。
また、治療剤を使用する場合も、これら薬剤を耐性菌対策のため必ず追加します。

【7月】黒星病、防除薬剤（輪紋病防除を含む）

7月上旬 : インダーフロアブル【DMI (EBI) 剤】 10,000 倍（収穫7日前／3回）

+ ベルクートフロアブル 1,500 倍（収穫14日前／5回）

7月中旬 : フルーツセイバー【SDHI 剤】 1,500 倍（収穫前日／3回）

+ オーソサイド水和剤 80 1,000 倍（収穫3日前／9回）

※輪紋病多発園ではフルーツセイバーの代わりにパレードフロアブル 15 2,000 倍（収穫前日／2回）（SDHI 剤）でもよい。

収穫期 : トップジンM水和剤（輪紋病対策） 1,500 倍（収穫前日／6回）

オーソサイド水和剤 80 は果実に薬剤汚れが発生する可能性があるため、対策が必要な場合、展着剤まくぴか 10,000 倍を加用しましょう。泡立ち防止のため最後に加えましょう。

●梅雨期の散布タイミングに注意

梅雨期は散布タイミングを逃しい時期です。天気予報に注意し、散布作業ができる日を逃さないようにしましょう。

●殺菌剤散布時期と降雨

薬剤の残効が切れた後に降雨を受けないような防除が理想です。残効の目安は約10～14日です。降雨が続いている場合は薬剤が流されやすく、病害も感染しやすくなるのでさらに薬剤散布間隔を短めに意識します。残効目安ごろの降雨前に、次の薬剤散布を実施してください。また、防除効果を安定させるために次の点にも注意してください。

- ①発病した果そう基部、葉、果実は2次伝染源となるため、圃場外に持ち出し処分してください。
- ②薬剤散布を行うにあたっては、薬剤が十分にかかるように十分な散布水量で散布してください（目安2500/10a）。散布量が少ないと防除効果にムラが出てしまいます。

3 ハダニ類

今後梅雨が明けさらに気温が高い日が続くと（30℃以上）、10日で一世代がかわる早さで増加を始めます。梅雨～梅雨明け直前ごろからのカネマイト・ダニゲッターによる防除が基本ですが、園内の発生状況を確認し、必要に応じて時期を早める必要があります。

○ハダニ類防除剤

時期	薬剤名	主な効果	登録内容
6月下旬	カネマイトフロアブル	殺成虫・牝ダニ対策	1000倍・収穫前日・1回
7月上旬	ダニゲッターフロアブル	殺卵	2000倍・収穫前日・1回
7月中旬頃	ダニコングフロアブル	殺成虫	2000倍・収穫前日・1回

4 カイガラムシ類対策

薬剤が効くのは主に幼虫の時期ですので、各種の産卵時期が重なる6月の防除が重要です。散布のかけムラによる効果不足が発生しやすいので、枝の上側・園外周など薬剤が直接かからない場所に発生がみられる場合には、直接散布することも必要です。



ナシマルカイガラムシによる被害果

○カイガラムシ類 防除剤

時期	薬剤	登録内容
6月上旬	ダズバンDF	3000倍・収穫30日前・3回
6月上旬～（臨機）	アプロード水和剤★	1000倍・収穫30日前・2回
	トランスフォームフロアブル★	2000倍・収穫前日・3回
6月下旬	スプラサイド水和剤	1500倍・収穫21日前（無袋）・2回
	〃	〃・収穫7日前（有袋）・3回

★どちらか選択

トランスフォームはアブラムシ類への登録もあるため、アブラムシ類防除も必要な場合はトランスフォーム優先。

作成：名雪

農業経営のリスクを減らしましょう ☆食中毒に気を付けましょう☆

J A全農ちば
営農支援部

1 食中毒対策について

夏に向けて気温が高くなると微生物が増殖しやすくなります。特に病原性大腸菌（O157(腸管出血性大腸菌)）等による食中毒に注意が必要となります。消費者へ安全な農畜産物をお届けする為に、石鹸を使用した手洗いを徹底しましょう。

手洗いチェッカーを使って
手洗い前後の手を調べました！

2. 石鹸を使って手洗いをしましょう！

- (1)手洗い前(農作業後)の手を調べてみると、洗い残しの汚れが青白く光ります。
- (2)水洗いのみの場合、まだ手は青白く光り洗い残しが確認出来ます。
- (3)石鹸を使用した手洗いの場合、青白い光がほぼ見られず洗い残しがほぼありません。

(1)手洗い前

(2)水洗いのみ

(3)石鹸使用手洗い



※画像は濃淡がわかりやすいよう、全て同じように明度を調整しています。

3. 家畜ふん堆肥は完熟たい肥を使用しましょう！

堆肥が未熟なままだと病原性大腸菌等が残っている可能性が高まります。堆肥は作物や作業者に触れる場合があるため、適切に完熟化した堆肥を使用しましょう。

適切な家畜ふん堆肥管理

- (1) 被覆等を行い、堆肥表面温度を55℃程度かつ数日間以上保つ。
- (2) 切り返しを行い、堆積物全体の温度が上がるようにする。
- (3) 堆肥を出荷調整場へ持ち込まないように、場所に合わせて履物を履き替える。

日頃からの小さな衛生管理が
産地の食の安心・安全を守ります！

作成者：名雪・田代